まち協用

亀山市地域福祉(活動)計画に関するヒアリングシート

地域まちづくり協議会名	ご記入者のお名前
白川地区まちづくり協議会	

第２次亀山市地域福祉計画・地域福祉活動計画（後期）の策定にあたり、貴協議会における地域の状況や活動について把握させていただくため、ヒアリングをお願いいたします。

ヒアリングでお聴きしたい内容は、主に次のとおりです。

問１．地域における福祉活動の実態（最近５年間の変化）
問２．地域における社会資源の状況（最近５年間の変化）
問３．地域における福祉課題
問４．地域福祉活動に対する評価
問５．地域福祉に関する自由意見

次ページ以降に、お聴きしたい具体的な内容を記載しています。可能であれば、ヒアリング日時までにご記入いただき、当日、この用紙をご持参ください。

また、質問の内容について別途まとめたものがありましたら、お手持ちの資料をご提供いただく形でも結構です。

お忙しいところ恐れ入りますが、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

【訪問者】
（1）亀山市　健康福祉部　地域福祉課（福祉総務Ｇ）　１名
（2）亀山市社会福祉協議会　地域福祉係　２名
（3）事業受託者　(株)日本開発研究所三重　１名

日　　時　令和３年５月14日（金）10時～12時
場　　所　白川地区コミュニティセンター
所要時間　１時間程度（予定）

問１－①	地域で、最近５年ぐらいの間に新たに始められた福祉活動はありますか。 また、始められたきっかけは、なんですか。

高齢者生活支援・介護予防事業

１）2017（平成 29）年 10 月 1 日より事業化スタート

２）白川地区（白木、小川）における高齢者の実態調査

①65 歳以上のお一人、お二人暮らし宅ご訪問によるヒアリング調査

②65 歳以上全員を対象としたアンケート調査

以上、冊子化（2017（平成 29）年 12 月 1 日）し、全世帯に配布

③『介護予防』のヒント探しと題し、2 回目のアンケート調査

冊子化（2018（平成 30）年 6 月 1 日）し、全世帯に配布

３）上記を受けて、

①移動販売（古市商店様）を導入、開始し、現在に至る（地内 9 か所）

②市推奨の「救急医療情報キット」を PR

４）75 歳以上のお一人、お二人暮らし宅訪問（4 回/年⇒R3 より偶数月の 6 回/年）

①6 回のうち 2 回（６，10 月）は白川小学校 3，4 年生児童と共に訪問活動を実施

＜上記３）および４）は現在も継続中＞

★きっかけは、生活支援コーディネーターとして市の非常勤として勤務したこと

問１－②	地域で、最近５年ぐらいの間にできなくなった福祉活動はありますか。 また、できなくなった理由は、どうしてですか。

子育て支援事業

１）2019（平成 31）4 月 1 日より事業化スタート

２）講師を招いて対応。平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月まで 1 回/月実施

３）参加者数の減少；令和元年度延べ 46 名、令和 2 年度延べ 5 名

４）白川地区では白川小学校が特認校制度を敷いていることもあり、親御さん同士の絆が強く、各行事への参加もされており、各行事参加の際、自ずとコミュニケーションができいる。とのお話を伺うことができました。

◎各行事でのコミュニケーションの場とは？

・まち協では運動会、夏祭り、スポーツ大会、明星祭など

・学校行事では PTA 集会、土曜授業や日曜参観の場、もちつき集会など

・地区会議では親子ふれあいバーベキュー大会

・子供会では市子連の練習や大会の場など

・その他では各自治会や未就学の親御さん方は地区の通学路にて児童達を通じて自然に触れ合っている

・親御さんの中にはあいあいやネットを通じて対応している方も等々

５）結論

令和 3 年度、本事業はまち協での講師を招いての事業活動を休止し、かつ、コロナが落ち着くまで静観します。講師の方には心より感謝申し上げます。同時に白川地区でのお子さんを持つ、親御さんからのヒアリングを通じて、また、地区自治会長、民生委員、福祉委員の手も借りながら、状況フォローを行っていく。

問２－①	地域で、最近５年ぐらいの間に普及したサービス（民間のものも含む）はありますか。また、普及した理由は、どうしてですか。

高齢者生活支援・介護予防事業～移動販売（業者；古市商店に依頼）

１）2017（平成 29）年 12 月 7 日よりスタートし、現在まで約 3 年半継続中

２）毎週木曜日、地内 9 地区（白木で 4 地区、小川 5 地区）で販売実施

３）買い物客は主に地域の高齢者（車を運転されない）が中心で毎回 30 名程度

◎2021（令和 3）年 1 月 14 日（木）伊勢新聞の取材の模様

古市店主（左）の移動販売車から食材を買う住民ら＝亀山市白木町押之尾で

移動販売車で高齢者に食材

亀山・白川地区、古市商店が巡回

【亀山】亀山市北西の山間部に位置する白川地区では、米・酒販売の古市商店（鈴鹿市石薬師町）の古市裕店主(五六)が移動販売車で、毎週木曜に同地区九カ所を巡回し、高齢者らに魚介や肉類などの生鮮食品や冷凍食品のほか、菓子や雑貨品を販売している。

同地区には、住民約七百六十人のうち、六十五歳以上の高齢者が約三百人。高齢化率は39・4％（市内二十二地区の平均は26・8％）。食料品店や雑貨店、コンビニもない同地区では、運転免許証を持たない一人暮らしの高齢者らは、食材を買いに行くこともできず、移動販売車に頼っている。

木曜の十四日、同地区押之尾で移動販売車を待っていた住民らは、買い物籠を手に持ち、魚や肉、パン、牛乳など購入し、来週に持って来てもらう必要な食材を注文した。同市白木町の広森久子さん(九〇)は「ほとんどの食材がまかなえて助かっている」と話した。

約十三年前から、鈴鹿、四日市内の山間部を、亀山の同地区には三年前から、買い物に困っている人らのためにと移動スーパーを始めた古市店主は「白川地区には一週間に一度だが、待っていてくれる人のためにも今後も続ける」と笑顔で話した。

問２－②	**地域で、「ちょこボラ※」など住民主体での見守りや生活支援のサービス、サロンなどの居場所づくりに取り組む動きはどれぐらいありますか。**
まち協としては「ちょこボラ」に対する仕組みは特にない。 自治会としては対応しているのか調査してみます。 先日 1 月 15 日運営委員会にて社協の方から 2 事例紹介頂きました。	

※地域のちょっとした困りごと（ごみ出しや草刈りなど）を地域住民の助け合い・支え合いで解決するしくみ。

問３－①	**地域で、福祉的な面で課題になっていることは何ですか。 また、その課題をどのように把握されましたか。**
①地域の担い手、後継者不足 ②市サイドで担い手の人材育成を強化してほしい	

問３－②	**地域の中で、複合的な課題（例えば、介護の必要な高齢の親とひきこもりの子どもの同居など）を持つ世帯はどれぐらいいると思いますか。 また、まち協の活動などにおいて、そのような世帯を把握されたり、聞いたりされたことはありますか。**
弊まち協としては把握していない。 3 自治会、民生委員さんに確認してみます。	

問３－③	**新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地域活動を行うのに、さまざまな制約があると思いますが、地域ではどのような工夫をされていますか。**
令和 3 年度の事業、行事実施について、コロナ禍における対応マニュアルを作成することを前提に地域住民の皆さんにアンケート調査を実施。結果（回収率 48%）は ・参加する・・・18%　・参加しない・・・39%　・分からない・・・43%　でした。 この結果を真摯に受け止めて、各行事開催前の各月運営委員会にて、開催の是非を決定するとしています。	

問４	地域での最近５年間の取り組みについて、取り組みが進んだ点はどんなことですか。逆に、取り組みが進まなかった点はどんなことですか。

〇取り組みが進んだ点

高齢者生活支援・介護予防事業として

①移動販売（古市商店様）の継続実施
②市推奨の「救急医療情報キット」を PR
③75 歳以上のお一人、お二人暮らし宅訪問
④児童への福祉講演

〇取り組みが進まなかった点

①子育て支援事業

問５	亀山市の地域福祉について、お気づきの点があればお聴かせください。

地域の担い手の人材育成の強化を工夫してほしい。